

# 解説特集「我々の教育システム情報学マップ： 問いの体系化の共有に向けて」

近藤 伸彦  
(東京都立大学)

田中 孝治  
(金沢工業大学)

山元 翔  
(近畿大学)

## 1. はじめに

教育システム情報学マップWG（ワーキンググループ）は、教育システム情報学会（JSiSE）の設立50周年記念事業の一つとして立ち上げられました。教育システム情報学における「問い」を体系化することによって「教育システム情報学マップ」を作成することがそのミッションです。

本学会誌 Vol. 39, No. 2 では、本WGによる解説特集「私の教育システム情報学マップ：問いの体系化に向けて」を掲載しました。この解説特集では、問いの体系化やマップ作成の視点と手がかりを幅広く構想することをねらい、WGの10名のメンバーそれぞれが、まずは自分が思う「私の教育システム情報学マップ」を独立して検討し、1編ずつの解説にまとめました。

今回の解説特集では、これら「私の」検討を出発点としたその後のWG活動における議論を整理し、現時点での本WGの中間報告として、3編の解説にまとめました。これらの解説は、マップの作成というゴールを目指した議論を通して、教育システム情報学そのものの姿を捉えたり、そのプレゼンスを高めたりするための論点を考察するものともなっており、問いの体系化という試みを共有する「我々の」マップに向けた検討が綴られています。この3編に刻まれている内容を踏まえつつ、最終アウトプットであるJSiSEとしてのマップの完成に向けて、読者のみなさまとともにさらなる議論を進められることを願っています。

## 2. プレカンファレンスの議論

本WGでは、先述した本学会誌 Vol. 39, No. 2 の解説特集を編んだのち、10名のWGメンバー以外の多く

の方々（「11人目のメンバー<sup>(1)</sup>」）とも意見交換すべく、2022年8月に開催された第47回教育システム情報学会全国大会においてプレカンファレンスを実施しました。『誰のための「教育システム情報学マップ」？—「問いの体系化」を軸に考える—』と題した本プレカンファレンスでは、先の解説特集で述べられた個々の観点を踏まえたうえで、構築すべきマップに関して、「誰のための可視化をすべきか」、「問いの体系化とは何か」という二つの観点について議論を展開しました。参加者には若手研究者や学生も多く、それぞれの立場から多様な意見が交わされる会となりました。

「誰のための」とは、マップの対象者（ユーザ）を明確に意識したうえでマップを作成する必要があるという考えを明示したものです。本プレカンファレンスではまず、マップのユーザたり得る対象者像についてブレインストーミングし、ここから多様な対象者像が見いだされました。この対象者像は、JSiSEという学会において（現時点で）研究活動をしている層（研究者や学生）と、そうではない層（企業・産業界や、教員、他分野の研究者など）の二つに大きく分けられると考え、それぞれの層を踏まえたマップのありかたについて議論を行いました。ここでは便宜的に、前者の層をJSiSEの「内側」、後者を「外側」と呼びました。ここでいう「外側」にはもちろん排他的な意味はありません。むしろ、「外側」の人たちに教育システム情報学への関心を持っていただいたり、研究分野間のつながりを見いだしていただいたりする、つまり「外側」と教育システム情報学をつなげていくためのマップを作るために必要な議論の一環としての分類です。

こうした「内側」と「外側」の層を想定しつつ、マップに対してどのようなニーズが想定されるか、またどのような「問いの体系化」やマップ作成をすべきかに